

## 行政改革懇談会 議事概要

日 時	平成 28 年 1 月 28 日 (木) 14 : 00 ~																											
場 所	播磨町役場 第一庁舎 3 階 BC 会議室																											
出席者	<p><b>【行政改革懇談会委員】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">播磨町商工会 中川 美千代</td> <td style="width: 50%;">新島連絡協議会 春山 健太</td> </tr> <tr> <td>自治会連合会 森野 六男</td> <td>税理士 平崎 泰彦</td> </tr> <tr> <td>連合婦人会 新留 節子</td> <td>住民委員 井澤 妙子</td> </tr> <tr> <td>学識経験者 南島 和久</td> <td>住民委員 大北 智子</td> </tr> <tr> <td>社会福祉協議会 近藤 龍樹</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">-----</p> <p><b>【町】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">播磨町長 清水 ひろ子</td> <td style="width: 50%;">理事 角田 英明</td> </tr> <tr> <td>副町長 三村 隆史</td> <td>理事 平郡 利一</td> </tr> <tr> <td>教育長 横田 一</td> <td>理事 福田 宜克</td> </tr> <tr> <td>理事 森本 貴弘</td> <td>理事 高倉 正剛</td> </tr> <tr> <td>総務グループ 統括 浅原 俊也</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"><b>【事務局 (企画グループ)】</b></td> </tr> <tr> <td>統括 岡本 浩一</td> <td>主事 濱田 祐輔</td> </tr> <tr> <td>リーダー補佐 堀江 直美</td> <td></td> </tr> </table>		播磨町商工会 中川 美千代	新島連絡協議会 春山 健太	自治会連合会 森野 六男	税理士 平崎 泰彦	連合婦人会 新留 節子	住民委員 井澤 妙子	学識経験者 南島 和久	住民委員 大北 智子	社会福祉協議会 近藤 龍樹		播磨町長 清水 ひろ子	理事 角田 英明	副町長 三村 隆史	理事 平郡 利一	教育長 横田 一	理事 福田 宜克	理事 森本 貴弘	理事 高倉 正剛	総務グループ 統括 浅原 俊也		<b>【事務局 (企画グループ)】</b>		統括 岡本 浩一	主事 濱田 祐輔	リーダー補佐 堀江 直美	
播磨町商工会 中川 美千代	新島連絡協議会 春山 健太																											
自治会連合会 森野 六男	税理士 平崎 泰彦																											
連合婦人会 新留 節子	住民委員 井澤 妙子																											
学識経験者 南島 和久	住民委員 大北 智子																											
社会福祉協議会 近藤 龍樹																												
播磨町長 清水 ひろ子	理事 角田 英明																											
副町長 三村 隆史	理事 平郡 利一																											
教育長 横田 一	理事 福田 宜克																											
理事 森本 貴弘	理事 高倉 正剛																											
総務グループ 統括 浅原 俊也																												
<b>【事務局 (企画グループ)】</b>																												
統括 岡本 浩一	主事 濱田 祐輔																											
リーダー補佐 堀江 直美																												
欠席者	労働者福祉協議会 北 幸治	教育・福祉関係 高島 安郎																										

事務局：ただ今より「播磨町行政改革懇談会」を開催いたします。まず、播磨町長 清水 ひろ子から、ごあいさつ申し上げます。

(町長 あいさつ)

行政改革実施計画の進捗状況について (平成 27 年度実績)

会長) 次第の 1 です。行政改革実施計画の進捗状況についてです。事務局よろしく申し上げます。

(事務局 資料確認及び資料説明)

会長) ありがとうございます。本日は最初から最後まで一気に、播磨町が重点的に取り組んできたことについてお話をいただいた。今の時点でご質問等ありましたらいかが

でしょうか。では、最初に私からお伺いをしたいと思う。実施状況の中で、大半は計画通りという「3」の評価がついているが、2や5の数字もあがっており目立つものであるので、説明をお願いします。

事務局) 6番の2ですが、投票率の向上を目的に投票所の数を増やしてきた。現状では投票率の減少傾向が続いているということもあり、新たな投票所の確保を検討しているが、当面は現状のままとすることになった。26番の機構改革に向けた検討だが、調査研究班の意見をもらいながら、再度構築の検討は必要と考えているが、大きな機構の改革は議会の承認等ハードルの高いものとなっており、実施できていないということで、5がついている。

会長) 選挙事務について、続けて質問します。行政としてはできるだけ効率化したいということから、投票所の見直しをしたいといことはわかる。他方で選挙というのは民主主義において、重要なものであり、18歳以上の選挙権の話もある中、行政ができる範囲に疑問がある。投票所の見直しなのか、事務の効率化なのか、どのあたりを当初狙われて実施しているのかがわかりにくかったと思う。機構改革について、議会の承認がいるというのは、当然ながらよくわかるが、当初は行政改革ということで、行政権の範囲内で考えられたと思うが、どういう考えを持っていたのか。補足をお願いします。

事務局) 投票所の設置について、投票所の数は他市町より多いが、投票率が低下しているということを受けて、投票所の利便性の向上を目的とし、投票所の新たな設置、変更を検討したが、代替地等の候補がなく、現状を維持している状態である。機構改革については、事務の効率化を図りながら事務の統合を図っている。大きく表に向けた改革ではなく、それぞれが所管している事務の統合といった取り組みは行っている。

会長) 6番については、投票所の利便性を図る、公民館との関係というのはわかった。26番については、事務改善、事務の効率化を念頭に置いていたということでした。

委員) 効果額の欄に、金額のあるものとなないものがあるが、入っていないのは金額として表せないということなのか、また別の理由なのか。またその中でも、大きなものが10番13番である。また効果額について、目標値はあるのか。

事務局) 金額の入っていないものは、金額の算定が具体的にできていない部分と、金額は発生しないが、業務的には改善されたというものが上がっている。なお、金額の上がっているものは、平成27年度中に歳入で入ったものである。今回は歳入として明らかにわかるものを記入している。目標値だが、ソフト的な改善というものは金額の算定が困難

で、記入がない状態である。トータルの効果額の目標値について、金額算定が難しいものもあり、トータルは定まっていない。進めていく中で、持てるように努めたい。

会長) 目標を持っているというよりも、行政改革の効果を表現する努力を図ったということではよいか。

副町長) 項目によって、数字が上がってくるものと上がってこないものがある。今のところで、把握できているものを毎年確認して積み上げている。

委員) 行政改革に、最終の目標というのは持っているのか。それとも努力をしていった結果、こういう効果があるといったことか。

副町長) 目標が明白にできればよいと思うがなかなか難しい。

委員) こういうのをやっていきましょうということで、効果があがるという話ということですね。

委員) 質問ですが、2ページの小学校給食事業について、調理の外部委託の可能性も検討しているということは、将来的には小学校で作らず、中学みたいに外部委託で給食センターから運ばれるということですか。

理事) 現在、正職員の調理員が減少してきており、パートや嘱託の人でまかなっている。仮に今いる正職員の調理員がいなくなってしまった場合、調理する部門を外部委託するのか、給食センターを作って直営でするのがいいのか、どの方式が播磨町にあうのかなどを検討するということ。

副町長) また給食室の老朽化もあり、それも含めて検討している。

会長) 建物の修繕にお金がかかってしまうのは仕方がないが、外部委託はコスト削減につながるのか。

町長) 現在は正職の調理員が各学校にいる。中学校の場合は外部委託をしている。今後、子どもの数の変動が学校により大きくなると思う。また、給食施設の老朽化も進んでおり、個々に修繕するよりも、中学校と一本化するほうが、コスト削減の効果があるとも考えられる。ただ、給食は保護者の方を中心に様々な意見があると思う。そこは教育委員会を中心に町民の皆様の意見や、学校の意見を聞きながら、何が一番良いか様々な可

能性を検討していきたいと考えている。

会長) 中長期的な観点で、合理的に播磨町に合った方法を模索、検討したいということであると思います。

委員) 行政改革の目標について、選挙では投票率の向上に効率化を求めることだと思うが、問題は全国的に投票率が低く、18歳以上に選挙権の拡大などあるが、行政や政治への関心が低いことが原因であると考え。自治会の行事の参加率は関心があるかないかで大きく変わっている。参加していくことで、良い考えを持つようになっていく。そういう意味では、投票所の見直しも、単なる見直しで終わるのか、投票率の向上を目的にするのか、これにより大分策が変わってくると思う。どう考えているか。

町長) 行政改革から見れば、投票所の効率的な設置ということになるが、政治や行政に関心を持っていただくという意味では投票率をもっと上げていかないといけない。ただ、それは行政改革という観点からはずれてしまうかと思う。できれば、土山駅前の交流スペースに期日前投票所を設置できれば、バリアフリーの十分でない投票所の方に来ていただけたりできるのではないかと考える。ただ、それが行政改革、コストダウンになるかということ、逆に費用がかかってくることもあると思う。投票率の向上については考えていかないといけないと思う。

委員) 投票率の向上の策の一つとして、投票所の設置はあると思う。

町長) 18歳以上の人たちも選挙権を持つことになるので、そういう人たちも目につきやすい投票所であったり、投票所に来にくいと思っている方も来やすくなるような場所の設定も必要かと思う。ただ、場所を移すことによって、これまで以上の経費がかかるということもあり得るかと思う。行政改革の面からすれば、コストが上がるが、他方から見れば、投票率の向上につながっているとすれば、大きな意味を持つものになると思う。

委員) 意味合いからすると、町のイメージアップということになるかもしれない。大局に見ると、投票率の向上はどこでも抱えている問題である。もしやるのであれば、方策がないことはないと思う。町全体でするのか、コミセンごとにするのかもあるが、町のイメージアップ、地方創生に波及していくと考える。

町長) 自治会の中での活動というのもお願いすることによって、投票率アップの効果が出てくるのではと思う。

会長) 選挙事務について、どれくらいの費用がかかってくるのかが明白でないのだから、  
にくくなっている。可能であれば明白にさせていただけたら、よりわかりやすくなるかと思  
います。

委員) 12 番ですが、26 年度決算が 91.4%となっている。今後の見通しについて、扶助費で  
市町の負担がますます増えるという見込みはあると思うが、そういうところから、必要  
な政策や推進している政策に予算が投入できなかつたりということが予測されるが、こ  
の比率はどのような見通しになるのか。

理事) 27 年度についても上昇の傾向が予測される。要因の一つが扶助費等の義務的な経費  
が要因となる。27 年度の当初では、人件費については、大量退職により減少している。  
公債費については、たまたまとめて償還が終わったということもあり、扶助費の増加  
は、抑えられている。これは意図的にできる部分もあるが、なかなか難しいところがあ  
る。今後の見通しについては、税収が伸びる予測にあるが、税収が上がると国からの交  
付税が減らされる。今の地方財政でいうと、独自財源である地方税は増えているが、交  
付税が減って、トータルとして収入面はほぼ横ばいである。事務的な経費の増加は、高  
齢化や子育て支援への扶助費の増額があり、経常収支だけで何%が正しいというのはな  
い。仮に 100%になったとしても、収支がトントンで運営できればそれに越したことはな  
い。ただし、経常収支以外の建物の工事は、経常的でなく臨時的な経費になるので、そ  
こへ回せるお金が、26 年度であれば 8.6%、約 5 億円程度を振り分けることができてい  
る。そういう臨時的な経費にかかるお金が少なくなっているという兼ね合いがあり、そ  
ういったことで難しい部分がある。

委員) 第 1 回の時に、27 年度からスタートし、これからの 5 年間の計画をしっかりと詰め  
ていたので、今回の会議では、進捗状況の報告になってくると思っていた。給食の時に  
あった話のように細かな話は出てくると思うが、全体としては、最初の出だしで作っ  
たものが走り出したという認識ですので、質問はありません。

委員) 最近防災の関心が非常に高い。防災の意識は、研修や危機管理グループ等の努力  
で計画はかなり進んできていると思っているが、次のステップへは行かないのか。地域  
防災の充実というのは、あまりにも範囲が広い。

会長) コストをかけるべきところはかけていくという趣旨の質問かと思う。

理事) 自主防災ということで、自分の身は自分の身で守るという、自助を基本において、  
共助、地域で守るということを自主防災で活動していただいている。町においても、啓

発や広報を自主防災を通じてやっていき、災害は自分のことのように考えるという意識を持ってもらいたいと思っている。

委員) サロンや自治会の集まりがよくある。自助とは何かということは常に聞いている。

理事) 町のほうでは、防災マップの改定作業を行っている。データを最新にするのは当然だが、どう使っていただくかが重要で検討している。日ごろからマップを活用していただき、自分の地域にはどんなリスクがあるのかというのを考えていただいて、活用していただきたい。

会長) 今回の議論は、コストを削減するばかりでなく、選択と集中ということで、かけるべきところにはかけるということも意識していただきたいと思います。

## 5. 閉会